

[記入例]

事例: 公共用水域に排水する特定施設2基(うち1基は有害物質使用特定施設)の設置を届け出る

様式第1 (第3条関係) (表面)

特定施設(有害物質貯蔵指定施設)設置(使用、変更)届出書

令和〇年〇月〇日

岡山県知事 殿

〇〇県〇〇市〇〇丁目〇〇-〇

届出者 〇〇工業株式会社
代表取締役 岡山 〇郎

水質汚濁防止法第5条第1項、第2項又は第3項(第6条第1項又は第2項、第7条)の規定により、特定施設(有害物質貯蔵指定施設)について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		〇〇工業株式会社〇〇工場	※整 理 番 号	
工場又は事業場の所在地		〇〇市〇〇丁目〇〇-〇	※受理年月日	年 月 日
第5条第1項関係	特定施設の種類	65 酸又はアルカリによる表面処理施設	※施 設 番 号	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 ☒ 無 ☐	※審 査 結 果	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	※備 考	
	△特定施設の設備(有害物質使用特定施設の場合に限る。)	別紙1の2のとおり。		
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
△排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。			
第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類			
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。		
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。		
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。		
	△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。		

〔記入例〕

(裏面)

様式第 1

第 5 条 第 3 項 関 係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	☐ 有害物質使用特定施設 ☐ 有害物質貯蔵指定施設		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙12のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙13のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙14のとおり。		
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統	別紙15のとおり。		

- 備考
- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる番号及び名称（指定地域特定施設にあつては、名称）を記載すること。
 - 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙 1 の 2 を提出することを要しない。
 - 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入すること。
 - 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 5 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 6 排出水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
 - 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

別 紙（県様式）

届 出 事 項 内 容

事 業 場 名 : **〇〇工業株式会社 〇〇工場**

担当者氏名 : **〇〇部〇〇課 〇田〇郎**

（電話） **〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇**

届出の概要

- ・ 特定施設として「酸又はアルカリによる表面処置施設」2基（うち1基は有害物質使用特定施設）を設置する。
- ・ 今回の届出に伴い、公共用水域に排出される排出水量及び化学的酸素要求量等の汚濁負荷量は、以下のとおりである。

排出水量 (m ³ /日)		+31 (+48)
汚濁負荷量	化学的酸素要求量 (kg/日)	+0.4 (+0.6)
	窒素含有量 (kg/日)	+0.1 (+0.2)
	りん含有量 (kg/日)	+0.04 (+0.06)

() は最大

※変更の場合には、変更前後で増減がわかるよう記載すること。

	変更前	変更後	増減
排出水量 (m ³ /日)	31 (48)	33 (50)	+2 (+2)
汚濁負荷量			
化学的酸素要求量 (kg/日)	0.4 (0.6)	0.6 (0.8)	+0.2 (+0.2)
窒素含有量 (kg/日)	0.1 (0.2)	0.2 (0.3)	+0.1 (+0.1)
りん含有量 (kg/日)	0.04 (0.06)	0.06 (0.08)	+0.02 (+0.02)

() は最大

※日平均排水量 50 m³/日未満の場合は、汚濁負荷量を記載する必要はない。

事 項	添付の有無
特定施設の構造	別紙 1 ☐ 有 : ☐ 無
特定施設の設備	別紙 1 の 2 ☐ 有 : ☐ 無
特定施設の使用の方法	別紙 2 ☐ 有 : ☐ 無
汚水等の処理の方法	別紙 3 ☐ 有 : ☐ 無
排水の汚染状態及び量	別紙 4 ☐ 有 : ☐ 無
排水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙 5 ☐ 有 : ☐ 無
用水及び排水の系統	別紙 6 ☐ 有 : ☐ 無
有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の構造	別紙 12 ☐ 有 : ☐ 無
有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の設備	別紙 13 ☐ 有 : ☐ 無
有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の使用の方法	別紙 14 ☐ 有 : ☐ 無
用水及び排水の系統（搬入及び搬出の系統）	別紙 15 ☐ 有 : ☐ 無
工程別排水系統図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
特定排水、冷却水等の総括表	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
特定事業場内排水経路図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
有害物質貯蔵指定事業場内有害物質搬入出系統図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
総量規制基準総括表	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
特定事業場（有害物質貯蔵指定事業場）の周辺見取図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の構造図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の配置図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の管理要領	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
汚水処理施設の設計計算書	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
汚水処理施設の構造図	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
その他（ 操業の系統図 ）	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無
その他（ 構造基準等対応総括表 ）	添付資料 ☐ 有 : ☐ 無

添付のないものは、前回の届出（ 年 月 日付け）と同じである。

特 定 施 設 の 構 造

工場又は事業場における施設番号	A-1 (酸洗浄槽)	A-2 (エッチング槽)
特定施設番号及び名称	65 酸又はアルカリによる 表面処理施設	65 酸又はアルカリによる 表面処理施設
型 式	浸漬式 (△△△社製 CM-5)	浸漬式 (□□□社製 DN-6)
構 造	鉄製、内部を塩化ビニールライニング (構造図は添付資料 1 のとおり)	鉄製、内部を塩化ビニールライニング (構造図は添付資料 2 のとおり)
主 要 寸 法	槽寸法 酸浸槽 1m×1m×1.5m×1槽	槽寸法 エッチング槽 600mm×600mm×1,000mm×1槽
能 力	ねじ 3,000個/日	ウエハ 1,000枚/日
配 置	めっき工場棟 1 階 (場内の配置は添付資料 3 のとおり)	エッチング工場棟 1 階 (場内の配置は添付資料 4 のとおり)
設 置 年 月 日	—	—
工事着手予定年月日	令和〇年 8 月 1 日	令和〇年 8 月 1 日
工事完成予定年月日	令和〇年 10 月 1 日	令和〇年 10 月 1 日
使用開始予定年月日	令和〇年 10 月 1 日	令和〇年 10 月 1 日
その他参考となるべき事項	有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。 防液堤等については、可能な場合には容量を記入すること。	床面:コンクリート製 厚さ100mm 周囲:側溝及びためますを設け、流出を防止 側溝:コンクリート製 厚さ100mm 幅300mm×深さ200mm×長さ10m ためます:コンクリート製 厚さ100mm 縦500mm×横500mm×深さ400mm

- 備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
- 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

「配置」の欄には、地下に設置されている場合には、その旨を記載すること。

特 定 施 設 の 設 備

工場又は事業場における施設番号	A-2 (エッチング槽)	
特定施設号番号及び名称	65 酸又はアルカリによる 表面処理施設	
設 備	地上配管、フランジ類、ポンプ設備	
構 造	地上配管 塩化ビニール製 フランジ類 2箇所 ポンプ設備 1台 (構造図は添付資料5のとおり)	
主 要 寸 法	地上配管 直径100mm×長さ30m	
配 置	エッチング工場棟 1階 (場内の配置は添付資料4のとおり)	
設 置 年 月 日	—	年 月 日
工事着手予定年月日	令和〇年 8 月 1 日	年 月 日
工事完成予定年月日	令和〇年 1 0 月 1 日	年 月 日
使用開始予定年月日	令和〇年 1 0 月 1 日	年 月 日
その他参考となるべき事項	配管については、地上配管、地下配管（トレンチ）、地下配管（埋設）などとして、地上又は地下のいずれに設置されているかを明示すること。トレンチの場合はトレンチの構造についても記載すること。	

- 備考 1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。
- 2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

- ・「設備」の欄には、施設に付帯する配管等、排水溝等の設備の名称を記載すること。
- ・「構造」の欄には、設備の材質を記載するとともに、検知設備を有する場合にはその旨を記載すること。
- ・「主要寸法」の欄については、設備のうち、主なものについて寸法を記載すること。
- ・「配置」の欄については、建物の名称・位置等を記載するとともに、地下に設置されている場合にはその旨を明記すること。
- ・有害物質を含む水が流れない場合は、構造等に関する基準が適用されないので、その他参考となるべき事項の欄にその旨を記載すること。

特 定 施 設 の 使 用 の 方 法

工場又は事業場における施設番号		A-1 (酸洗浄槽)		A-2 (エッチング槽)	
特定施設番号及び名称		65 酸又はアルカリによる表面処理施設		65 酸又はアルカリによる表面処理施設	
設置場所		めっき工場棟 1 階 (場内の配置は添付資料 3 のとおり)		エッチング工場棟 1 階 (場内の配置は添付資料 4 のとおり)	
操業の系統		酸洗浄を行う (工程は添付資料 6 のとおり)		エッチングを行う (工程は添付資料 7 のとおり)	
使用時間間隔		断続 週に 2～3 日程度使用し、 使用時間帯は不規則		連続 10 時～18 時	
1 日当たりの使用時間		4 時間		8 時間	
使用の季節的変動		なし		なし	
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び 1 日当たりの使用量		塩酸 30%水溶液に部品を浸漬 300L/日		エッチング溶液（ふっ酸を含む） 20%水溶液に部品を浸漬 200L/日	
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	2.4～4.0	2.4～4.0	3.0～4.0	2.0～5.0
	BOD (mg/L)	15	20	50	100
	COD (mg/L)	30	40	200	400
	SS (mg/L)	70	100	30	50
	油分 (mg/L)	5	10	40	60
	T-N (mg/L)	10	20	5	8
	T-P (mg/L)	5	10	2	3
	大腸菌数 (CFU/mL)	<5	<5	<5	<5
	ふっ素及びその化合物 (mg/L)			30	50
汚水等の量		通常	最大	通常	最大
(m ³ /日)		10	15	8	12
その他参考となるべき事項		その他参考となるべき事項の欄には、有害物質使用特定施設の場合において、有害物質の製造、処理を行っている場合には、製造、処理を行っている有害物質の種類を記載すること（届出がなされた特定施設のうち、どの施設が有害物質使用特定施設になるかを把握するため）。 なお、使用している有害物質が、原材料の欄に記載されている場合は改めて記載する必要はない。			

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

汚 水 等 の 処 理 の 方 法

工場又は事業場における施設番号		B-1							
処理施設の設置場所		添付資料8のとおり							
設 置 年 月 日		—				年 月 日			
工事着手予定年月日		令和〇年8月1日				年 月 日			
工事完成予定年月日		令和〇年10月1日				年 月 日			
使用開始予定年月日		令和〇年10月1日				年 月 日			
種 類 及 び 型 式		C社製〇〇式××型							
構 造		鋼板製（一部コンクリート製） （構造図は添付資料9のとおり）							
主 要 寸 法		添付資料10のとおり							
能 力		最大40m ³ /日							
処 理 の 方 式		中和+凝集沈殿+砂ろ過							
処 理 の 系 統		添付資料11のとおり							
集水及び導水の方法		地上配管+ポンプによる汚水圧送							
使 用 時 間 間 隔		連続							
1日当たりの使用時間		24時間							
使用の季節変動		なし							
消耗資材の1日当たりの用途別使用量		中和剤：20%水酸化ナトリウム水溶液 15L 凝集剤：8%硫酸アルミニウム 10kg							
汚水等の汚染状態及び量	種類・項目	通 常		最 大		通 常		最 大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	pH	2.4~8.0	5.8~8.6	2.4~8.0	5.8~8.6				
	BOD (mg/L)	30	8	65	10				
	COD (mg/L)	100	10	250	15				
	SS (mg/L)	50	5	70	10				
	油分 (mg/L)	20	1	38	5				
	T-N (mg/L)	7	2	13	4				
	T-P (mg/L)	3	1	6	1				
	大腸菌数 (CFU/mL)	<5	<5	<5	<5				
	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	10	1	15	3				
量 (m ³ /日)	25	25	35	35					
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法		汚泥1.0t/月 脱水処理後業者に処分委託（委託予定先〇〇興業㈱）							
排出水の排出方法		添付資料12のとおり							
その他の参考となるべき事項		排出水の排出先 用水→〇〇川→高梁川→瀬戸内海							

- 備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。
- 2 排出水の排出方法の欄には、排水口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排 出 水 の 汚 染 状 態 及 び 量

排水口名称 (番号)		No. 1 (工程排水処理施設+冷却水)		No. 2, 3, 4 (雨水)	
排水口名称 (番号)					
排 出 水 の 汚 染 状 態	種類・項目	通 常	最 大	通 常	最 大
	p H	5. 8 ~ 8. 6	5. 8 ~ 8. 6	—	—
	BOD (mg/L)	7	9	—	—
	COD (mg/L)	8	13	—	—
	SS (mg/L)	4	9	—	—
	油分 (mg/L)	1	4	—	—
	T-N (mg/L)	2	3	—	—
	T-P (mg/L)	0. 3	1	—	—
	大腸菌数 (CFU/mL)	< 5	< 5	—	—
	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	1	3	—	—
排 出 水 の 量		通 常	最 大	通 常	最 大
(m ³ /日)		35	48	0	0
そ の 他 参 考 と な る べ き 事 項					

備考 排出水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

排水の排水系統別の汚染状態及び量

						指定項目の別			化学的酸素要求量	
特定 排 出 水	業種その他の 区 分	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)					汚濁負荷量 (kg/日)	
		通 常	最 大	通 常	最 大	Q _{c 0}	Q _{c i}	Q _{c j}	通 常	最 大
	202	10	15	25	35		10	25	0.25	0.35
	232 (7)	20	30	4	5		5		0.08	0.10
	合 計			29	40		15	25	0.3	0.5
	特定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種類及び用途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)			
通 常			最 大	通 常	最 大	通 常	最 大			
冷却水		1	2	6	8	0.01	0.01			
合 計				6	8	0.01	0.01			
そ の 他 の 参 考 事 と 項										

- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、化学的酸素要求量について記載すること。

排水の排水系統別の汚染状態及び量

						指定項目の別			窒素含有量	
	業種その他の 区 分	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)					汚濁負荷量 (kg/日)	
		通 常	最 大	通 常	最 大	Q _{n 0}	Q _{n i}	Q _{n j}	通 常	最 大
	特 定 排 出 水	2 0 2	2	4	2 5	3 5	1 0	2 5		0. 0 5
2 3 2 (7)		2	4	4	5		5	0. 0 1		0. 0 1
合 計				2 9	4 0	1 0	3 0	0. 1		0. 1
特 定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種類及び用途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)				
		通 常	最 大	通 常	最 大	通 常	最 大			
	冷却水	0. 1	0. 3	6	8	0. 0 0	0. 0 0			
	合 計			6	8	0. 0	0. 0			
そ の 他 の 参 考 事 と 項										

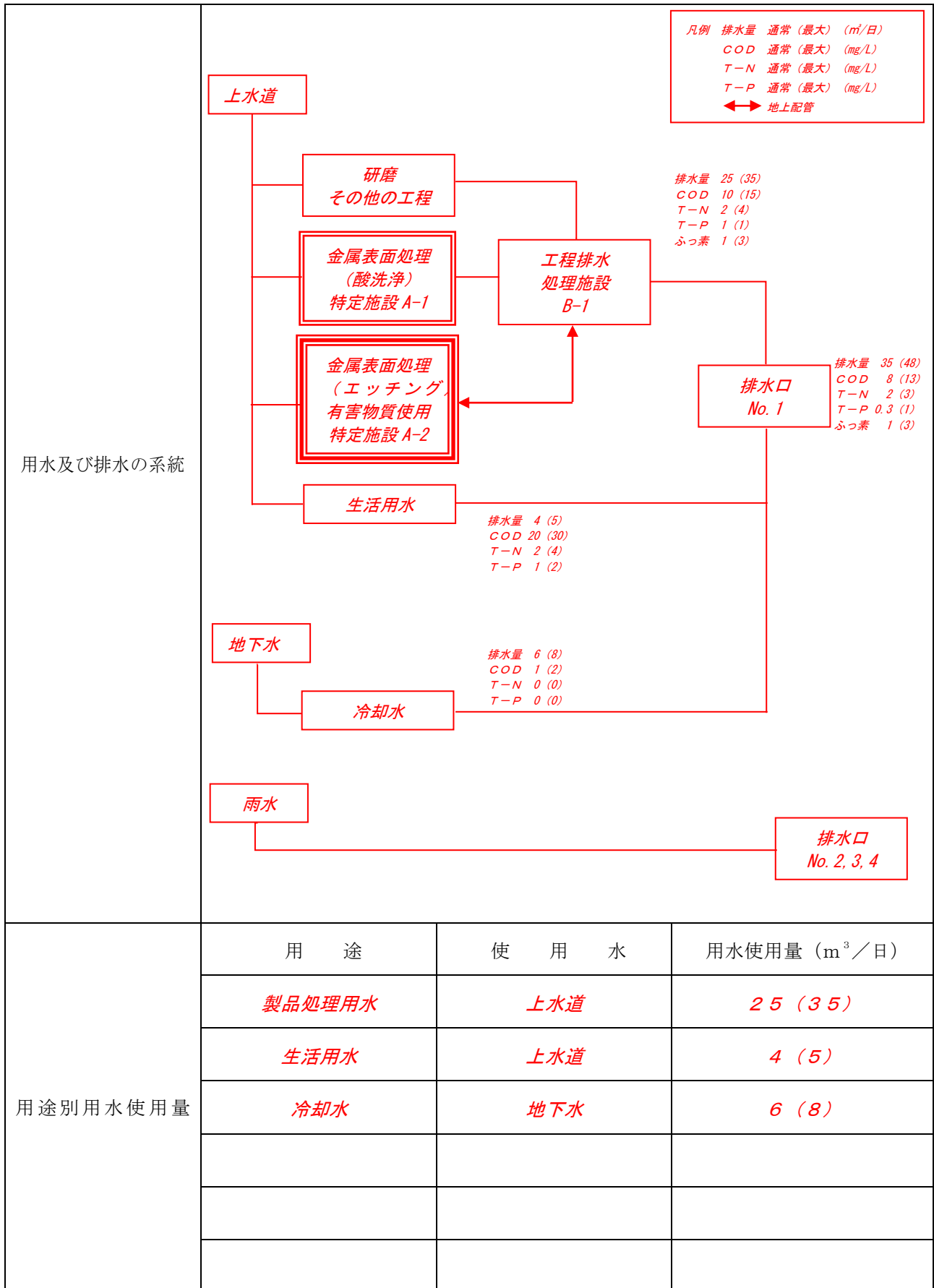
- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、窒素含有量について記載すること。

排水の排水系統別の汚染状態及び量

						指定項目の別			りん含有量	
	業種その他の 区 分	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)					汚濁負荷量 (kg/日)	
		通 常	最 大	通 常	最 大	Q _{p0}	Q _{pi}	Q _{pj}	通 常	最 大
	特 定 排 出 水	202	1	1	25	35	10	25		0.025
232 (7)		1	2	4	5		5	0.004		0.005
合 計				29	40	10	30	0.03		0.04
特 定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種類及び用途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)				
		通 常	最 大	通 常	最 大	通 常	最 大			
	冷却水	0.05	0.10	6	8	0.000	0.000			
	合 計			6	8	0.000	0.00			
そ の 他 の 参 考 事 項										

- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、りん含有量について記載すること。

用 水 及 び 排 水 の 系 統



[記入例]

添付資料（県様式）

特 定 排 出 水 、 冷 却 水 等 の 総 括 表

特定排水、 冷却水等の区分	産 業 分 類 (細分類)	業種区分番号	排水の量 (m ³ /日)		備 考
			通 常	最 大	
特定排水	2 4 2 9	2 0 2	2 5	3 5	
特定排水	—	2 3 2 (7)	4	5	
冷却水	—	—	6	8	
合 計			3 5	4 8	

[記入例]

添付資料（県様式）（総量規制基準適用事業場のみ添付）

化学的酸素要求量に係る総量規制基準総括表（令和〇年度）

排水口 番 号	業種区分その 他の区分番号	化学的酸素要求量		排水水の量(m ³ /日)		汚濁負荷量(kg/日)	
		区 分	C c (mg/l)	通 常	最 大(Qc)	通 常	最 大(Lc)
1	202	(2)	20	6	10	0.12	0.20
1	202	(3)	20	19	25	0.38	0.50
1	232(7)	(2)	40	4	5	0.16	0.20
			合 計	29	40	0.7	0.9

- (注) 1 化学的酸素要求量欄は、平成19年岡山県告示第358号別表第3欄に掲げる区分(1)、(2)又は(3))及びその値とする。
- 2 業種区分ごとの汚濁負荷量は、小数点以下2桁(3桁目を四捨五入)までを記載し、合計欄は、小数点以下1桁(2桁目を四捨五入)とする。

添付資料（県様式） （総量規制基準適用事業場のみ添付）

排水口 番 号	業種区分その 他の区分番号	窒素含有量		排水水の量(m³/日)		汚濁負荷量(kg/日)	
		区 分	Cn(mg/l)	通 常	最 大(Qn)	通 常	最 大(Ln)
1	202	(1)	40	6	10	0.24	0.40
1	202	(2)	20	19	25	0.38	0.50
1	232(7)	(2)	40	4	5	0.16	0.20
			合 計	29	40	0.8	1.1

- (注) 1 窒素含有量欄は、平成19年岡山県告示第359号別表第3欄に掲げる区分((1)又は(2))及びその値とする。
- 2 業種区分ごとの汚濁負荷量は、小数点以下2桁(3桁目を四捨五入)までを記載し、合計欄は、小数点以下1桁(2桁目を四捨五入)とする。

添付資料（県様式）（総量規制基準適用事業場のみ添付）

排水口 番 号	業種区分その 他の区分番号	りん含有量		排出水の量(m³/日)		汚濁負荷量(kg/日)	
		区 分	Cp(mg/l)	通 常	最 大(Qp)	通 常	最 大(Lp)
1	202	(1)	4	6	10	0.024	0.040
1	202	(2)	2	19	25	0.038	0.050
1	232 (7)	(2)	3	4	5	0.012	0.015
			合 計	29	40	0.07	0.11

- (注) 1 りん含有量欄は、平成19年岡山県告示第360号別表第3欄に掲げる区分((1)又は(2))及びその値とする。
- 2 業種区分ごとの汚濁負荷量は、小数点以下3桁(4桁目を四捨五入)までを記載し、合計欄は、小数点以下2桁(3桁目を四捨五入)とする。